

金沢市立 兼六小学校

[はじめに]

本校は、金沢市の中心部旧市街地に位置し、平成28年4月より旧材木町小学校と旧味噌蔵町小学校が統合し兼六小学校として開校した。全校児童は425名、教職員は35名である。

校区には、金沢城公園や兼六園が含まれ四季の変化や素晴らしい景観を感じることができる。自然や歴史が残る卯辰山と浅野川の流れにも面しており、金沢の伝統文化や伝統工芸、それに携わる方々が今もたくさん残っている地域である。また、高齢者の方が多く住まれ郷土愛に満ち、公民館活動をはじめ地域の諸団体による子どもたちの育成活動は盛んである。

今年度もユネスコスクールの認定を受け、環境や伝統・文化を主要テーマとして持続発展教育の実践に取り組んでいる。

大切にしたい ふるさと 受け継がれてきた 絆

1 ユネスコスクールとしての取組

3年「わたしたちの心をつなぐ金沢の和菓子」～和菓子探検隊～

金沢は和菓子消費量が日本一であることを知り、「なぜ日本一なのか、金沢の和菓子のひみつを見つけよう」という学習課題を立てた。金沢に伝わる風習や季節の行事と和菓子について調べる中で、和菓子は茶道とともに発展してきたことを知った。そこで、校区にある7軒の和菓子屋を訪問し、直接職人さんやお店の方にインタビューをした。「和菓子のひみつ」をはっきりさせようと主体的に取り組む姿が見られた。

また、茶道や和菓子作り、抹茶碗作り等の体験を行った。和室での作法やお茶の頂き方などを知り、金沢ではお茶文化とともに和菓子文化が愛され、「おもてなしの心」が大切にされてきたことなどを学んだ。

その後、和菓子消費量が日本一であるにもかかわらず、和菓子消費量はこの10年間で減っていることを知り、大変驚き、和菓子のよさを知ってもらうことが大切と考えた。そこで、浅野川小学校の3年生と交流したり、和菓子屋さんのポスターを描いたり、和菓子パンフレットを作成し観光客や地域の方に紹介したりするなどの活動を行った。

子どもたちは和菓子を身近なものとして捉え、金沢の和菓子文化を大切にしていきたいという思いを持つことができた。



4年「加賀友禅 ～加賀友禅大使になろう～」

金沢の伝統工芸「加賀友禅」について、校区の友禅作家である新納さんから「下書き→下絵→糊置き→彩色→中埋め→水元」の工程を指導していただき、体験を通して、それぞれの工程で使う道具の名前、使い方、気をつけることなどを学び、作品を仕上げた。その後、5人の作家さんにインタビューし、加賀友禅を残していきたいという思いを知り、自分たちにもできることがないかを考えた。

さらに、学んだことをジュニア加賀友禅大使として、観光客や保護者に向けて発信した。これらの学習を通して、加賀友禅のすばらしさを誇りに思い、大切にしていきたい気持ちを持つようになった。



5年 「浅野川とともに生きる」

5年生は、まず自分たちの校区にある身近な浅野川について自慢に思うことを挙げた。その中で、いろいろなイベントがあることや、伝統文化が関わっていることを自慢に思う一方、ごみが捨てられていることを心配する声があった。子どもたちの間では、浅野川はきれいかきれいでないか意見が分かれた。その理由を話し合う中で、川の水の生き物調査と水質調査、ゴミ調べを行うことになった。

浅野川に生息する生き物調査では、川底や石に付着している生き物を採集して指標と比べたり、パックテストをして結果を分析したりした。科学的な調査の結果、浅野川の水はきれいという結果になったが、子どもたちには身近な浅野川を自慢できる川にしたい思いがあり、「ゴミが落ちていたから完全にきれいではない」「きれいに金沢の文化とともに自慢に思える川にしたい」と新たな課題が生まれた。それからは、クラスごとに「観光客発信」「地域発信」「浅野川沿線学校発信」に分かれて、浅野川の良さを伝えるとともに、自分たちができるゴミ拾い等を行った。

終末には、自分たちはこれから浅野川をどんな川にしたいか、そのためにどんなことができるかを考え提案文を書いた。一人一人が浅野川と向き合い、地域の一員としてよりよい環境をつくっていこうという意識を持つことができた。



6年 「つなげよう 広げよう 荒子小学校との絆」

姉妹校の名古屋市立荒子小学校の児童が修学旅行に来る際に、金沢の魅力を伝えるという活動を行った。まずは5年生の時に見つけた魅力の一つである加賀宝生を県立能楽堂で発表し、伝統芸能を継承していくことの大切さに触れ、これは伝えるべき魅力であると気づいた。また、百万石まつりや前田利家、地域にある観光名所等を調べパンフレットにまとめた。さらに、金沢を訪れている国内外からの観光客が感じていることを直接インタビューし、生の声を調査した。自分たちが当たり前だと思っていた食のおいしさや風景



の美しさが大きな魅力だということや、人の優しさや新幹線効果の大きさも新発見することができ、自分の校区や金沢を誇りに思う気持ちを強くすることができた。交流会当日は、兼六園や金沢城、尾張町、ひがし茶屋街、金沢21世紀美術館等を実際にガイドしながら魅力を伝えた。また交流後にも手紙を交わすなどしてここででの出会いを大切にしたいという思いを持つことができた。



2 成果と課題

①人と人とのつながりから、社会・自然・世界とのかかわりを深める

今年度もこれまでに引き続き、学年に応じた地域の町並みや文化、伝統 産業とかかわる体験活動を実施してきた。本校の総合学習では学年があがるにつれ地域に愛着や誇りを持つことができるようにしている。また、古くから受け継がれてきたものを支え守り続けてきた人たちや地域の人達とのかかわりの機会をこれまで以上に多く設け、思いや願い、環境を維持し守っていこうとする人たちの取組にもふれる学習をこれまで以上に大切にしたい。

②カリキュラム作成上の工夫

年間を通して課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現のサイクルを丁寧に繰り返してきた。情報収集では児童が自ら校区へ出かけ、校区のよさを十分に生かすことができた。またサイクルを繰り返すことで児童は表現して終わりではなく次にどうしたらよいかと課題意識をもつことができた。しかしながら、前年度とのつながりがなく、スタートが教師主導であるなどの課題も残った。年間通してではなく、前年度とのつながり、一つ上の学年からの活動要請などより主体的活動ができるような単元構成にしていく必要がある。

③発表の場の工夫

今年度は、発信・交流の場を各学年がそれぞれの活動内容に応じて、必要な時期に適した相手に対して行うことができた。対話力を向上させ、意見を聞いたり新たな情報を得たりする機会にしていきたい。